

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

今年度は「小中高連携英語教育推進校」の指定を受けていることもあり、ホームページ上では、地域や保護者の皆様だけでなく外部の教育関係者向けとしても取組内容を発信しています。

2年生英語パフォーマンステスト

単元のゴール

自分の興味のあるトピックについて、調査を元にしたデータを比較しながら伝えることができる。

- ① 最初にペアでウォームアップの時間。発表する際の留意事項を共有し、持ち時間1分で3回のローテーションを行い、口慣らしをしました。

発表する側

- ・原稿なし、メモなし、プレゼンスライドのみ。
- ・詰まってもアドリブで対処する。（簡単な単語や表現で十分。）
- ・伝える相手は「目の前」にいることを忘れずに！
- ・「Can Do」という姿勢が相手に伝わり「感動」を生む！



- ② いよいよ発表です。前時に順番も決めていたので、心の準備はできていたようです。簡単な相互評価シートを配付し、それぞれのプレゼンを聞いた後に記入する時間を設けます。なお、生徒のプレゼンはクラウドストレージに作成したフォルダに保存しておき、QRコードにして読み込ませることで簡単にアクセスできるように準備しておきました。



事前に周知しておいたので、たくさんの先生が見に来てくれました。

- ③ 発表は、教師用 iPad で教室後方から撮影しました。すべての発表が終わった後、生徒は先生から Air Drop 機能で送信された自分のパフォーマンス動画を見て自己評価を記入しました。



単元を終えて

・パフォーマンステストは、今回はプレゼンスライドのみでの挑戦としました。単元の前半で様々なグラフを初見で与え、相手に伝えるという活動を繰り返し行っていたので、詰まったときのアドリブにそれが生きてくるということを言い続けてきました。その成果もあり、全員が最後までヘルプなしでやりきることができ、今後の英語学習の自信につながったのではないかと思います。

・指導過程における内容チェックはプリントやノートでは一切行わず、口頭練習を見ながらの助言のみに終始しました。英文の添削をテスト前に行うと、それ以外の表現に目を向けることができなくなり（アドリブがきかなくなる）、教師の添削した英語の発表会になっては意味がありません。そのため、表現のまちがいは所々ありましたが、「自分の力」で乗り越えさせることを大切にしました。パフォーマンステストの評価項目には「正確性」も当然入りますが、「正確性」の評価は定期テストや別の筆記テストでも見取ることができます。「挑戦する姿勢」や「工夫」の感じられるプレゼンの方がよいプレゼンであり、それらを自分なりに考えて実践に移した生徒のがんばりに賛辞を送りたいと思います。